こころとコロ

つばきアロマ

作品にこめたおもい

盲導犬の幼少期をお世話する、パピーウォーカーのお話を取り上げました。
大切なペットとの出会いと別れ、その体験から、少女は何を学んでいくのか。
それを中心に創作しました。

盲導犬は、人間の家族から愛情を受けることで、盲導犬としての素質に目覚めていきます。
そして、その家族にも、愛情の大切さが伝わると思っています。

原作

こころ　５さいのたんじょう日。
パパが　つれてきたのは、子犬でした。
かわいい　おとうとができて、こころは　うれしくてたまりません。
名まえを　コロとつけました。

パパはいいました。
「コロはね、１さいのたんじょう日がきて、犬の学校に入るまで　うちであずかるんだよ」
「学校って？」
「もうどう犬になるための学校さ」
「もうどう犬って？」
「目の見えない人の、あんぜんをまもる　しごとをする犬なんだよ」
すごいなあ。こころはコロを　ほこらしく思いました。

それから　こころとコロは　いつもいっしょ。
あそびもいっしょ。ケンカもいっしょ。
ゆきの　おにわで　かけっこしたり、ふきのとうのさがしっこ。おてらの林でセミとりをして、
花火もいっしょに見にいったよね。
お山の木の葉が　あかくなったころ、コロはこころより　大きくなっていました。

コロ　１さいのたんじょう日。
かぞくみんなで　おいわいです。

おめかしをして、みんなできねんさつえい。
それでもこころは　えがおになれません。
「コロと別(わか)れるなんてイヤ！」
こころは、コロをつれて　やねうらにかくれました。はなれないように　ぎゅっとだきしめました。
ずっとなきつづけて、いつのまにか、ねむってしまいました。

（こころ、いっぱい　あそんでくれて　ありがとう。ぼくは、すごくしあわせだったよ）
と、コロの声(こえ)がきこえました。
（コロは、はなればなれになっても　へい気(き)なの）
（へい気なもんか。でもね、みんなに　しあわせにしてもらったぶん、こんどはぼくがだれかをしあわせにしてあげたいんだ）
（コロはつよいんだね）
（こころもいっしょに　つよくなろうよ）
目(め)をさますと、コロがやさしく　こころのなみだのあとを、なめていました。

わかれのあさです。
えがおで　みおくろうと思(おも)ったのに、なみだで　わかれのことばもいえません。
げんこつをにぎりしめながら、やっといえた　ひとこと。
「・・・ありがとう、コロ」

こころ　7さいのたんじょう日(び)。
きょうはパパとおでかけです。
しんごうをまっていると、はんたいがわに　もうどう犬(けん)をつれた人(ひと)がいました。
そのもうどう犬(けん)は　コロでした。
はなれているけれど、こころが　みまちがえるはずはありません。

「コロ！」
そうよぼうとしたとき、パパにとめられました。
「だめだよ。もうどう犬(けん)がびっくりすると、つれている人(ひと)はもっとびっくりするからね」
こころは　コロにかけよって、だきしめたいのを　ぐっとこらえました。

コロは　目(め)もと口(くち)もとをキュッとひきしめ、しっかりとした足(あし)どりで、目(め)の見(み)えない人(ひと)をあんぜんに　みちびいていました。
りっぱにしごとをしている　コロは、もうこころの　小(ちい)さなおとうとではありませんでした。
そう思(おも)ったら、うれしいやら　さみしいやら。なんだか　なみだがポロポロポロポロ。
こころは　よこをとりすぎていく、コロを見(み)つめるだけです。

そのとき、コロのしっぽがいちどだけ、フワリとゆれました。こころに手をふるように。
（こころ、しんぱいしないで。ぼくはだいじょうぶだよ。おしごとをがんばっているよ）
コロの気もちが　つたわってきました。

「パパ、またいつの日か、コロといっしょにくらしたいな」
「うん、そうだね。コロが　もうどう犬のおしごとを　ぜんぶおわらせたら、むかえにいこうね」
「やったあ！おたんじょう日のプレゼントは、そのやくそくで　きまりね！」
パパは　こころのあたまをなでながら、なんどもなんども　うなずきました。